

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500038		
法人名	有限会社ナチュラルケア中津川		
事業所名	グループホーム恵寿		
所在地	岐阜県中津川市中津川950-25		
自己評価作成日	平成29年9月4日	評価結果市町村受理日	平成29年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index_ehm?action=kouhyou_detail_2017_022_kami=trus&ligvosvoCd=2191500145-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成29年9月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開業9年目になりました。建物や庭は入居様が安心して生活して頂けるように、認知症ケアのノウハウを活かし、症状が緩和できるように工夫をしています。また、スタッフには法人独自の研修を行ない、理念である「尊厳のある その人らしい 穏やかな生活」を目標に、入居者様、ご家族様に満足して頂ける様な良いケアを目指し取り組んでいます。そして地域の一人として交流の場を設けたり、地域の方々に認知症という病気を理解して頂ける様に日々努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の南方上に秀峰恵那山が見えている。利用者は、見慣れた風景に癒されながら、穏やかな生活を送っている。また、家族からは、職員のきめ細やかな対応について、感謝の声が届いている。事業所には、人生経験豊かな職員と子育て中の職員が勤務している。年齢差はあるが、管理者は、それぞれの経験値を評価し、さらに能力を発揮できるよう年間の学習計画を立て、バックアップをしながら、職場環境を整えている。そして、地域との交流を深めながら、利用者・家族共に、満足が得られるよう努め、その人らしい人生が送れるようケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念として「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活」を掲げている。その理念を日頃のケアに活かせるように事務所や内玄関に掲示してスタッフが意識するよう働きかけている。研修時の指導も行っている。	理念は、玄関と事務所に掲示し、日々の業務の中で支援の経過を確認しながら、職員間で共有している。利用者が、地域と関わりながら、尊厳をもって、穏やかな生活が送れるように支援の実践をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方からどんど焼き、流しそうめん、防災訓練などに招待され、参加している。また、恵寿のお祭りは利用者様を中心に料理を作り、地元の方と共に準備を行う。近所の散歩で地域の方と挨拶を交わしたり、野菜をおすそ分けしていただけたこともある。子供110番の家にも登録されている。	地域のイベントや防災訓練に参加している。ホームの夏祭りは、近隣住民と共同開催で行い、利用者も準備段階から関わり、住民と交流をしている。散歩の際には、行き交う人々と親交を深めている。近所の農家からは、収穫物の差し入れが日常的にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の方から入居相談を受けたり、運営推進会議の中で、ご家族や地域の方に「認知症について」「介護保険の介護度について」「ケアプランについて」などを説明して理解をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で、施設の状況報告や取り組みを報告している。地域からの要望や共催している夏祭りの計画も行っている。	運営推進会議では、運営の実情を報告し、出席者は、忌憚なく意見を述べている。イベントの企画運営や利用者の外出支援、災害対策などを話し合い、事業運営に反映させている。	行政担当者や家族の出席が得られるよう工夫し、質疑内容や課題の要点を議事録に明記し、会議本来の機能が活かせるように期待をしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等参加して頂き、事業報告や市の意向を確認して取り組んでいる。	市主催の会議や研修会に参加をしている。担当者とは、電話やメールなどで連絡を取り合い、事故報告や生活保護受給者の課題について相談し、助言を得るなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、居室の施錠、ベッド柵や衣類などを含めて身体拘束を行っていない。拘束に対するマニュアルが事務所に設置しており、スタッフが目を通し、正しい理解が得られるようにしている。職員研修でも取り上げている。	身体拘束をしない方針でケアに取り組んでいる。玄関や居室の施錠、言葉による拘束がないように徹底している。安全上、止むを得ない場合は、家族と話し合い、最小限の処置に留めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修を実施し、職員に意識付けを行っている。又、マニュアルを事務所に設置し、虐待とは、身体的、精神的、経済的、性的虐待・ネグレクトを含むものであることを認識できるようにしている。		

岐阜県 グループホーム恵寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様に後見制度を利用している方がみえ、制度について知るきっかけになっている。事務所に成年後見制度についてのマニュアルが設置しており、職員がいつでも目を通せるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にはご家族や利用者様の希望に添い、入居相談や見学に対応し、安心して契約していただけるように働きかけている。契約には内容や制度の説明を十分に行ない、理解・納得していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時も含め、普段から利用者様やご家族の意見を聞き取っている。また、家族対応担当のスタッフを決め、面会時や電話連絡、年末の家庭訪問などで運営に関するご家族の意見・要望を聞き取り、運営推進会議などでも外部に周知して頂いている。	家族の訪問時や電話などで、意見や要望を聞き取っている。ホーム便りには、利用者の近況報告欄を設け、家族と意思の疎通を図っている。家族からの要望で、難聴の利用者には、テレビの字幕表示設定を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は随時行われる面談や、契約内容更新時に聞き取る機会を設けている。また、管理者は普段から職員とコミュニケーションをとり、話をし易い環境を整えている。面談の内容は、報告書として本部に渡し、反映されるようになっていく。	職員からの意見や提案を聴き、ミーティングの場で話し合っている。また、個人面談の機会も設けている。ケアの際の気づきや改善点、職員が働きやすい職場環境について話し合い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が会社独自の目標管理シートに目標を記入し、半年毎に目標が達成できたかの見直しを行う事で、向上心を高める働きかけを行っている。又、職員の能力や適正を把握し、業務を任せようようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人には、指導力を持つ職員が担当となり業務や介護技術についての指導を行っている。又、年間を通して研修スケジュールをたて、それに添った研修を行う他、外部で行われる研修への参加も促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会、ケアマネ部会、中津川市の勉強会や、市民病院で開催される勉強会などに参加し、職員同士の交流・勉強を通じてサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学や訪問時にご本人の主訴が聞き取れるように時間をかけて傾聴している。面識が少なくても話しやすいように世間話やご本人の好む話題を交えて聞き取りを行うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談表を使い、ご本人の認知症の症状や既往歴、ADLやこれまで、そして現在抱えている問題や今後の介護に対する要望などを聞き取り、その内容を初回のケアプランにも活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の困っている事、早急に解決が求められるニーズを優先させてケアプランに記載している。入居前に利用していたサービス事業所や居宅ケアマネからも情報を得て福祉用具の検討なども行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族から聞き取った生活歴や、得意なこと・好むことを入居後も活かせるようにしている。家事や農作業などを職員と一緒に取り組んでいただけるように働きかけ、作業後は感謝を伝えてやりがいを感じていただけるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族対応職員を定め、日頃のご様子やケア方針、医療に関することなどの連絡を取り合っている。必要時ご家族からケアに関する意向を聞き取ったり、夏祭りなどの行事にご家族と一緒に参加していただけるように働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい方が手紙を送ってくださったり、入居前にご近所に済んでみえた方が、定期的にお電話をくださったりすること、以前の職場仲間が面会にみえることもある。また、行きつけのパン屋に買い物へ行ったり、配偶者の入居先の施設に面会に行くこともある。	親しい人と、電話や手紙を交わせるよう支援し、職場仲間の面会時には、ゆっくり過ごしてもらい、再訪につなげている。また、家族の協力を得て、行けつきの商店や外食、美容院などへ出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの座席の配置に気を配ったり、会話が難しい方の橋渡しをして利用者様同士がコミュニケーションが取れるように支援している。元気な入居者様が歩けない方の食器を片付けたりしてくださることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後については利用者様の状況に合わせてご家族様と連絡をとるようにしている。特養に入居するため退去される方の情報を先方に提供することもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に、ご本人やご家族から意向や身体状態、精神状態等をアセスメント表などを活用して聞き取り、ケアプランに活かし支援している。3ヶ月毎に行っているケアプラン作成時にもその時々でご本人、ご家族の希望や意向の聞き取りを行い、それに沿ったケアが出来るように努めている。	アセスメントに加え、日常の関わりの中で、思いや意向を把握している。困難な人は、表情から読み取り、把握した情報は、連絡ノートやライフコンディションシートで共有し、利用者の思いに沿った暮らし方に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅訪問時にご本人、ご家族から生活歴、既往歴、サービス利用の経過等の聞き取りをしている。入居前には居宅の担当ケアマネとも情報収集をし、入居後のケアに活かすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、連絡ノート、引き継ぎノートの記入、受診後に受診ノートへの記入をし、スタッフ間で現在の状況等の情報共有を行っている。スタッフは各ノートを読んだ後はサインを残し、読み忘れないようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは複数のスタッフから情報収集して行っている。作成したケアプラン通りにケアを行えるよう、フロアに置いてある個人記録に挟んでいる。ご家族からの意向の聞き取りや必要に応じて医師や看護師とも連携をとりケアプラン作成をしている。状態が変化した際はその都度内容を変更するようにしている。	介護計画は、本人・家族の意向を確認し、職員の意見や気づきを反映させている。必要に応じて、医師や看護師とも話し合い、見直しを行いながら、利用者の健康を維持し、生きがいを持つプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や連絡ノート、受診ノート等を記入し、出勤した際、フロアに入る際に確認するようにしている。個人記録は「毎日の記録」に書ききれない内容や詳しく記載したい内容は別紙「ケース記録」に書くようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事の好みに合わせ、その方が好む惣菜や菓子を一緒に買い物しに出かけたり、個々に合わせた支援をしている。今年から、口腔衛生の重要性を考慮し、希望される方を対象に歯科往診を利用している。		

岐阜県 グループホーム 恵寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや地域行事(どんど焼き、そうめん流し)に参加している。隣にあるデイサービスに歌のボランティアの方が来た際、歌が好きな利用者様も参加し、世代に合った歌を聴き楽しまれていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にご家族と相談し、希望する場合は事業所のかかりつけ医に変更をしている。希望されない場合は、元々のかかりつけ医にご家族対応で受診している。ご家族対応の受診では(施設とご家族間で情報交換をし)円滑に健康状態の把握が出来るように努めている。	入居前に、本人・家族に、かかりつけ医を選択できることを説明し、協力医を希望する利用者は、月1回の往診または通院による診察を受けている。以前のかかりつけ医への通院は、家族が担当が、事情によっては、職員が同行している。医療情報は家族と関係者で共有し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所看護師に相談し連携をとっている。利用者様が体調不良や急変した場合、事業所の看護師に相談し指示を受けている。事業所では対応しきれない場合は、かかりつけ医と連携をとりながら対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は介護サマリーを記入し、情報交換をしている。入院中にはお見舞いに行ったり電話で状態確認のやりとりをしている。また、退院前には病院に行き入院中の様子や現在の状態確認を行い、必要であれば福祉用具の準備等もする。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期になった場合は、主治医の意見を書面にまとめてグループホームで出来ることをご家族に理解して頂いた上で、ご家族の意向の確認や事業所でのケアの方向性を記載した確認書を使用し話し合いをしている。	契約時に、重度化や終末期についての方針を説明している。状態の変化に応じて、医師の助言を得ながら家族と職員で話し合いを重ね、方針を共有している。家族が看取りを希望する場合は、確認書を交わし、今後の対応、ケアについて話し合いを行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網通りに連絡するように徹底しており、管理者や看護師の指示を仰ぐ体制をとっている。事業所では対応できない場合は救急対応するよう指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設独自の訓練を行い、災害発生時の対応は今後も考えていきたいと考えている。またスタッフの災害に対する意識の強化も図っていききたい。地域との共同訓練を行えるよう検討している。	災害訓練は、火災を想定した初期消火や通報、避難誘導など、夜間想定を含めて行なっている。地域の防災訓練にも参加し、連絡網には、地域の役職者の名も含め協力体制を構築している。備蓄品の確保と職員の防災意識強化が課題となっている。	災害の種類別に応じた、防災対策のマニュアルを整え、職員の対応力の強化に期待をしたい。また、備蓄品の数と量の適正な確保が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心、プライドが高く、排泄失敗があっても介助でのリハパン交換が頻回に出来ない利用者様に対しては入浴回数を増やすなどの対応をしている。また、トイレには小さなすりガラス窓がついており、プライバシーを保護しつつ安否確認ができる。	職員は、常に、利用者一人ひとりの人格を尊重し、排泄の失敗があっても、羞恥心に配慮しながら、自尊心を損ねない対応で支援に努めている。言葉かけの際は、目線を合わせ、笑顔で穏やかに語りかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時に用意する着替えの衣類を利用者様と一緒に選んだり、おやつを出す際、要望を聞くこともある。利用者様が文房具や菓子、総菜などを店で選んで購入できるよう買い物支援も行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様と外出する日を決め、その日のスタッフの人員を多くする等をし、行きたい所に行けるようにしている。入浴も出来るだけ希望に沿った時間帯に入って頂けるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、定期的に美容師に来てもらい入居者様の希望する髪形に散髪している。美容師のご家族様が切りに来て下さることもある。また、入浴の準備をする時にご本人に洋服を選んでもらえるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや包丁を使って切る、盛り付け等、立位が安定している方は台所で行い、不安定な方は椅子に座ったまま行ってもらったり入居者様の状態に合わせている。下膳も出来る人には運んだり、洗い物、食器拭きをお願いしている。	利用者は、職員と一緒に、食材の準備や盛り付け、片づけなど、出来る人が出来ることを手伝い、食事作りに関わっている。食事中は音楽を流し、職員も利用者と同じ食事を摂り、ゆっくりと楽しい時間を共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を毎回記録に残し、把握できるようにしている。持病に糖尿病や高血圧などがある方には出来る範囲での制限を行ったり、低栄養の方に医師から処方された経腸栄養剤を摂取していただくなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼・夕食後に口腔ケアを行っている。義歯を失くしてしまう利用者様がいる場合は毎食後、義歯を預かる等で対応している。希望者には月に一度、歯科医の往診を受け、口腔ケア指導も行ってもらっている。		

岐阜県 グループホーム恵寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人一人の排泄リズムを掴んで支援するように努めている。正面からのトイレ誘導に応じて頂けない利用者様には声かけに配慮したり、移動の途中でトイレに寄っていただくなどの工夫をしている。	個々の排泄パターンに合わせてトイレへ誘導し、トイレで排泄することの心地よさが体感できるよう、支援をしている。生活の区切りの際にもトイレへ促し、習慣化につなげている。夜間は、歩行不安な人は、ポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時のおやつの際に牛乳を飲んでもらっている。排便があった場合、チェック表や業務報告書に記入し把握出来るようにしている。又、看護師や主治医に相談をして薬を処方してもらうこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けをする際に、スタッフが無理なく動ける範囲内で午前と午後どちらが良いか利用者様に選んでもらえるようにしている。季節感を感じてもらう為に、しょうぶや柚子を入れることもある。利用者様によっては、好みのシャンプーや石鹸を使用してもらっている方もみえる。	入浴は、午前と午後に分け、本人が選択をしている。こだわりのシャンプーや石鹸を使う人もあり、それぞれの入浴習慣を尊重して支援している。入浴を嫌がる人には、声かけのタイミングを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、家事手伝い等を行い、体を動かすよう促している。また、利用者様が居室にて横になる場合は夜眠れるように時間を決めて横になってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが確認出来るようにフロアに処方箋ファイルを置いている。病院受診後、薬の追加や変更があった場合、受診ノートや連絡ノートに記入している。利用者様一人一人の薬棚を作り、看護師が管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の1人ひとりの力や生活歴、嗜好品を把握し、日頃の家事手伝いや、外へゴミ捨て、居室や廊下を掃除機がけ等一人ひとりの役割や日課を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段から近所への散歩やお花見などの季節毎の外出、地域の行事への参加などで外出支援に努めている。利用者様の馴染みのスーパーに出かけ、好みの菓子やパン、総菜などを一緒に買い物することもある。ご家族と旅行に行かれる方もみえる。	日常は、周辺の散歩やホームの庭園、東屋などで外気に触れている。また、職員と共に、買い物や季節の花見に出かけている。家族とも、外食や喫茶店、墓参りなど、馴染みの場所へ出かけている。	

岐阜県 グループホーム 恵寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様によっては、カバンや財布を持っていないと落ち着かれない方もいる為、ご家族に了承を得て小銭程度のお金を所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人から手紙が届いた場合、ご本人に渡したり、電話がかかってきた時はご本人に取り次いだりしている。以前の勤め先や旧友の面会があることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに季節の花を飾ったり、七夕やクリスマス、雛人形など季節感を取り入れている。また、リビングでは冷暖房や対人関係などに配慮した席配置を心がけている。	共有の間の窓越しに、雄大な景観を眺めることができる。対面式のダイニングキッチンとリビングは、一体化しており、台所からは、食事づくりの気配が伝わってくる。一角にある畳コーナーには、昼寝用の布団を置き、自由に寛げるよう工夫し、家庭的な雰囲気と生活感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにずっと過ごしている方もいれば、居室で過ごす時間が長い利用者様もいる。居室にて長く過ごされている利用者様には、おやつや食事時に声掛けをし、リビングに来てもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族の協力を得て、自宅で使用していた家具等を持ち込んでもらい、施設でも使用してもらっている。利用者様によっては家族写真や思い出の品を飾ってもらったり、居心地よく過ごせるようにしている。	居室には、エアコンと押し入れが備え付けてある。ベッドや整理筆筒、必要な備品、また、本人が使い慣れた物を持ち込み、それらを好みに配置し、居心地よく暮らせるよう工夫しながら、居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室から廊下のトイレまで、一人で歩行するのが不安定な方がいる場合は、居室内にポータブルトイレを設置したり、ベッド下にセンサーを設置し、鳴ったらスタッフが対応出来るようにしている。		